

米国の学習成果の診断

教育プログラム次元のルーブリック

大学評価・学位授与機構
2013年4月12日（金）

本田 寛輔
メイン州立大学オーガスタ校
Institutional Research & Planning
Analyst

本講演会の目標

- アメリカの高等教育における学習成果の診断の実態を報告する
- 取り分け、教育プログラムの次元におけるルーブリックの活用を説明する
- 日本の大学関係者が抱きがちなアメリカ高等教育に対する幻想を和らげる

講演の流れ

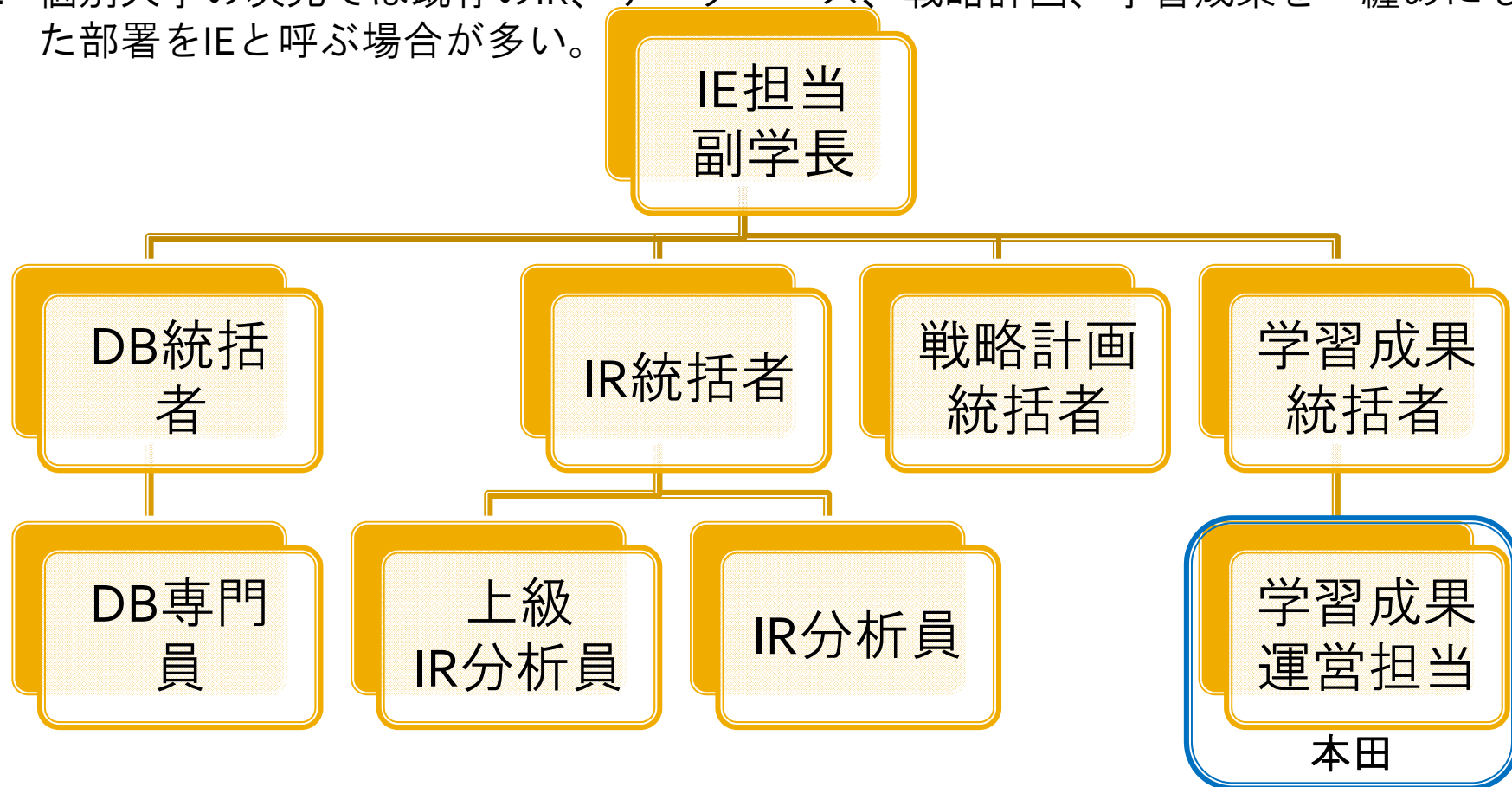
- 事例校の紹介
- ルーブリックの説明
- 学習成果の診断の苦労と手応え
- 日本への示唆
 - IRの有効性（付録1）
 - 適格認定の有効性（付録2）

NY州立大学 エンパイア・ステイト・カレッジ

- 社会人学生を対象
学部生18,894名 大学院生1,244名
- 遠隔教育の提供
Onlineと地域学習センターの併設
- 個別対応学位課程
Individualized Degree Program

Institutional Effectiveness部署

1. IE（機関の有効性）は適格認定協会が言い出した概念や基準だが、それ程具体化されているわけではない。
2. 個別大学の次元では既存のIR、データベース、戦略計画、学習成果を一纏めにした部署をIEと呼ぶ場合が多い。



3つの学習成果の診断を運営

- 一般教育分野の診断
- 専門教育課程の診断
- 個別学位課程の診断

学習成果の診断の作業工程

- 学部 of 学習目標の設定
- 科目の配置の確認（Curriculum Mapping）
- ルーブリックの作成
- 教員の募集と確保
- 教員へのオリエンテーション
- 複数科目から学生 of 作品（小論文やエッセイ）を収集
- 学習成果 of 測定（予行演習、査定本番、査定結果 of 分析、査定結果 of すり合わせ、改善へ向けた会議）
- 最終 of 査定結果 of 分析
- 報告書 of 作成

評価と診断の違い

- Evaluation（評価）

ある活動の最終段階で成果を総括的に調査し、結果を予算配分や人事考課などに結びつける場合が多い

- Assessment（診断）

ある活動の形成過程で現状把握や将来の方向性を点検する為の継続的な査定で、結果は改善に役立てる

問題意識

- カリキュラムは単なる科目の寄せ集め？
- 隣の教員が何を教えているのか知らない
- 教員にとってカリキュラムの検討は腫れ物を触るような思い

学習成果の診断の目的

1. 適格認定への対応

- 執行部の一般的な考え方だが、これを前面に出すと教員から反発を受けるので、項目2を謳う

2. 学生の学習成果を伸ばしたい

- 教員の願い（取り分け地域総合大学と教養教育大学の場合）

3. 体系性のカリキュラムを構築するため、教員が議論できる資料と場を作ること

- 学習成果担当者（本田）の使命感

学習成果に係る指標の種類

- 学部学科の教員や執行部の関心や問いに答えるには、3つの情報を組み合わせて分析する必要がある
- 日本では直接指標の測定が未発達

機関情報	間接指標	直接指標
• 志願者数 • 入学者数 • 2年次進級率 • 在学率 • 卒業率 • 教員対学生比 • 1科目あたりの平均受講者数	• 入学者調査 • 1年次学生調査 • 学生満足度調査 • 授業評価 • 4年次学生調査 • 卒業生調査 * 各種学生調査は全米版と学内版がある	• 科目での試験 • 全米統一試験 • 小論文 • 全米論文試験 • ポートフォリオ * 試験や論文では全米の共通試験がある

機関情報

データ収集項目の例	特徴
• 志願者数 • 入学者数 • 2年次進級率 • 在学率 • 卒業率 • 教員対学生比 • 1科目あたりの平均受講者数など	• 財政と直結している為、執行部が注視している • データ定義が誰にとっても明確なため、疑義が生じ難い • 学習成果の測定の面では、学生の学習経験や学修目標の到達が不明

間接指標

データ収集項目の例	特徴
• 入学者調査 • 1年次学生調査 • 学生満足度調査 • 授業評価 • 4年次学生調査 • 卒業生調査 など * 各種学生調査は全米版と学内版がある	• アンケート調査の項目が一般的な描写で、回答に対する具体的な理由が見え難い。 • 学習成果の測定の面では、学生の学習経験や学習目標の到達を扱うものの、学生の「自己申告」な為、調査結果の信頼性に疑問を持たれる場合がある。

学生調査の有効性

- 学内の改善に結び付き易い場合
 - 学生調査の内容に関し、学内で既に問題意識が醸成されている
 - 競合校との比較で自校の問題点が浮き彫りになる
- 学内の改善に結び付き難い場合
 - 調査結果が良好で、改善よりは広報に使われる
 - 学内で認知されている問題と調査項目に齟齬がある
 - 教員が調査結果を無視して、自分達の個人的な認識に固執する

直接指標

データ収集項目の例	特徴
• 科目での試験 • 全米統一試験 • 成績 • 小論文 • 全米論文試験 • ポートフォリオなど * 試験や論文では全米の共通試験がある	• 学習成果定義が教員や執行部の認識によって異なり、疑義が生じ易い。 • 学習成果の測定の面では、学生の技能の習得を実際の学生の作品から査定することから、結果の信頼性はより高いと適格認定より推薦されている。 • 準備と測定に膨大な時間と費用が掛かる。

ルーズブリックとは

- 採点表
- 専門知識の理解や分析能力を要素分解し、習得度を段階的に説明したもの
- ルーズブリック自体は単なる枠組みであり、どのような文脈で何を査定するのかという設計が重要

ルーブリック（経済学部の場合）

要素／段階	期待に合致しない	期待に近づいている	期待に合致する	期待を超える
社会科学の調査手法に関する理解（仮説形成、情報収集、観察、測定など）	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されていない	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解を簡単に示しているだけで、説明が不足している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されており、適切な手法を選択している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示され、適切な手法の選択に加え、その限界も指摘している
主要な概念やモデルの応用	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルの理解がない	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを原文から引用しているだけで、その理解が不完全である	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用している	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用し、概念やモデル自体を分析、検証している

教育目標と学習成果の違い

■ 教育目標

- 教育活動において意図した目的や期待される結果を教員が設定
- 前提として、目標は全学、学部、学科、教育課程、科目の次元で関連性があること

日本では就職率が成果と捉えられがちだが

■ 学習成果

- ある教育プログラムの修了時点で学生が習得した実演可能な理解や技能
- 前提として、測定可能であること

* 本発表では「教育プログラム」を学士課程、専門教育、一般教育、正課外教育、授業科目などの総称として用いる。

ルーブリック内の教育目標

一般的に教員は教育目標のみを示し、学生の作品を評価している。ところが、これだけでは学生が教育目標をどのように具現化すればよいのか説明不足である。

要素／段階	期待に合致しない	期待に近づいている	期待に合致する	期待を超える
社会科学の調査手法に関する理解（仮説形成、情報収集、観察測定など）	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されていない	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解を簡単に示しているだけで、説明が不足している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されており、適切な手法を選択している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示され、適切な手法の選択に加え、その限界も指摘している
主要な概念やモデルの応用	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルの理解がない	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを原文から引用しているだけで、その理解が不完全である	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に應用している	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に應用し、概念やモデル自体を分析、検証している

ルーブリック内の学習成果

学習成果として学生が習得すべき知識や技能を段階的に示すことにより、学生が教員の期待をより具体的に理解し、課題に取り組むことができる。

要素／段階	期待に合致しない	期待に近づいている	期待に合致する	期待を超える
社会科学の調査手法に関する理解（仮説形成、情報収集、観察、測定など）	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されていない	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解を簡単に示しているだけで、説明が不足している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示されており、適切な手法を選択している	ある特定の事象や課題を分析する際の手法に関する理解が示され、適切な手法の選択に加え、その限界も指摘している
主要な概念やモデルの応用	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルの理解がない	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを原文から引用しているだけで、その理解が不完全である	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用している	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用し、概念やモデル自体を分析、検証している

ルーブリック活用の次元

同じルーブリックと査定対象物でも、次元により使い方が異なる

次元	対象物	査定者	目的
科目の成績付け	当該科目の小論文やエッセイなど	授業の担当教員	学生に対する評価基準の明確化
教育プログラムの診断	複数科目の小論文やエッセイなど	教育プログラムの教員集団	教育プログラムや授業内容の改善

経済学部 of 学習成果 of 診断 of 概観図

経済学部 of 目標

- ・ 社会科学 of 調査手法
- ・ 主要な概念やモデル of 応用

計量経済学

経済開発論

ミクロ経済学

マクロ経済学

労働経済学

世界経済史

経済学部 of ルーブリック

- ・ 社会科学 of 調査手法
- ・ 主要な概念やモデル of 応用

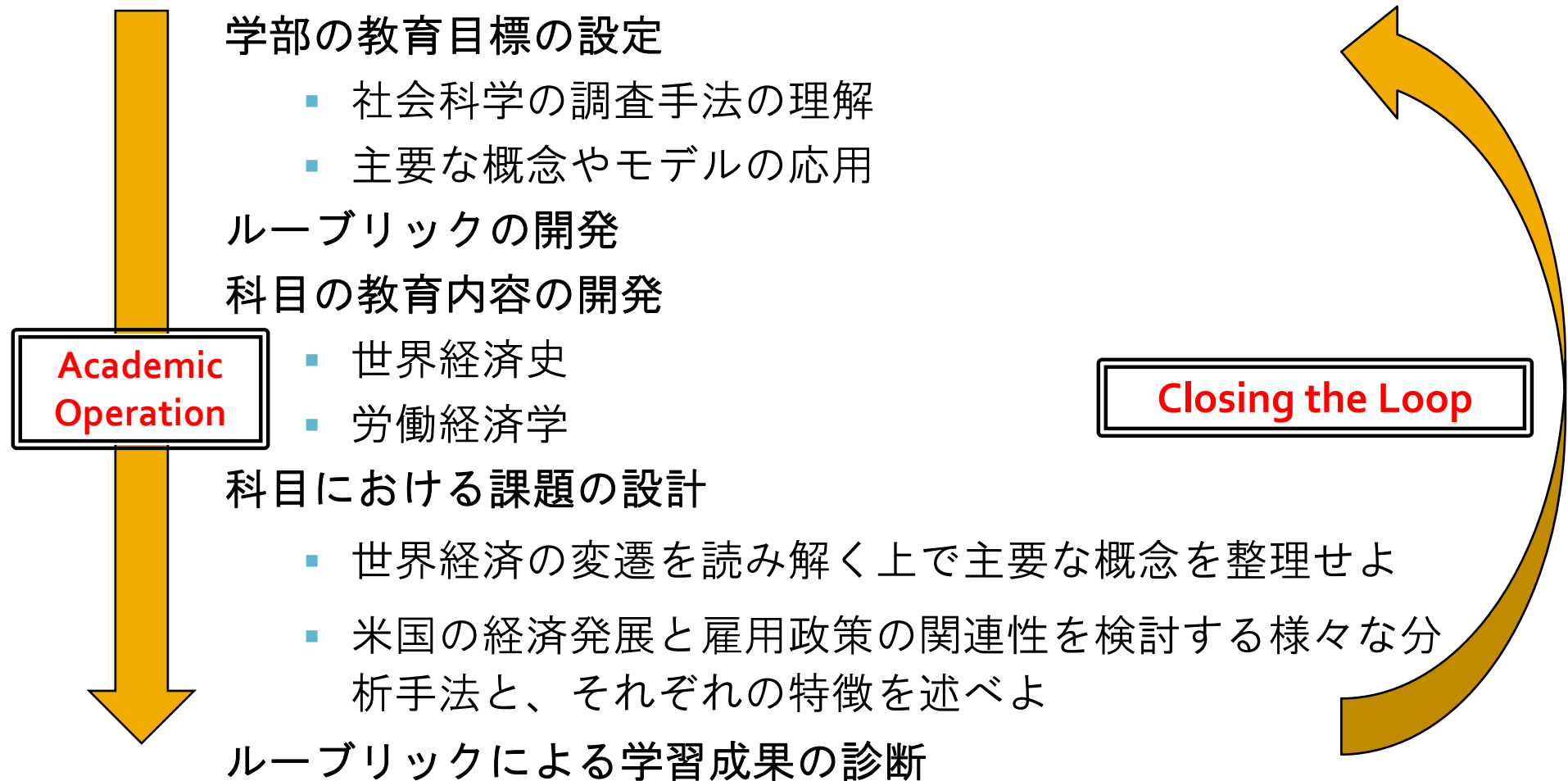
経済学部学習目標と各科目の教育内容の対応表（Curriculum Mapping）

1. 左端の列は経済学部教育目標の各要素で、1番上の行は経済学部の科目名。
2. 教員がシラバスを持ち寄り、自分の科目が学部の教育目標の各要素をどの程度授業内容で網羅しているかを教授会で議論する。

参照：<http://www.assessment.uconn.edu/primer/mapping1.html>

	世界経済史	労働経済学	ミクロ経済学	マクロ経済学	経済開発論
社会科学の調査手法の理解	中級程度	導入程度	中級程度	中級程度	導入程度
主要な概念やモデルの応用	導入程度	該当せず	中級程度	導入程度	中級程度

経済学部 of 学習成果の診断に係る 設計と整合性



ルーブリックによる査定

要素／段階	期待に合致しない	期待に近づいている	期待に合致する	期待を超える
主要な概念やモデルの応用 下記は学生の小論文の一部抜粋です。 あなたは学生の習得がルーブリックのどの段階にあると判断しますか？ その理由は何ですか？	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルの理解がない	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを原文から引用しているだけで、その理解が不完全である	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用している	ある特定の事象や課題に関連する主要な概念やモデルを自分の言葉でまとめ、それを研究対象の分析に応用し、概念やモデル自体を分析、検証している

中国経済の発展は目覚ましいものがあります。ただし、貧富の拡大は深刻な問題です。富の分配を検討する上で、Trickle Down理論の考え方はこの問題に対して一定の示唆を提供してくれるでしょう。この理論は富裕層が豊かになり、彼らの消費によって貧困層へも富が次第に再分配されると提唱しています。ですから、近い将来は中国は貧富の差が縮小してくるでしょう。

査定における教員間の議論

ESCでは1つの学生の小論文（かエッセイ）を2名の教員が査定する。

- A教授：私は「期待に合致しない」だと思います。だって、この学生は理論をあたかも真実のように捉えていますよね。3文目から4文目に誤謬がありますよ。
- B教授：A教授、確かにご指摘は最もですが、その評価はちょっと厳しくありませんか？物凄く単純にですけど、学生は理論について説明していますよ。ですから、私は「期待に近づいている」だと思いますが。
- A教授：そうですね。ふーむ、私も同様の査定に修正しようかな。この学生の小論文って、学部生のレベルなら妥当というか、まあ許容範囲にまでは到達していますかね。
- B教授：そうですね。ところで、中国で実際に貧富の差が拡大しているのかどうか書かれていませんね。
- A教授：その経年データを持ち出して理論を証明や検討ができれば、私は「期待に合致する」にしますよ。

教員の議論が改善へと関心が移るとき

- B教授：A教授が先程おっしゃられた「理論をあたかも真実のように捉える」ことは学部生の間でよくありますよね。この辺をどのように教えたら良いのでしょうか？
- A教授：ああ、それなら私が使っている教材をお教えしますよ。社会科学の理論を身近な例から説明しているので学生から分かり易いと好評なんです。
- B教授：助かります。
- A教授：話は変わりますが、今我々が査定している経済開発論が学部で開講されているのは知っていました。でも、自分が想像していたより幅広い内容を取り扱っているみたいですね。これなら、自分が指導している学生にも勧めてみようと思います。
- B教授：学習成果の診断は大変ですけど、他の先生の授業の課題や学生が自分の科目以外でどんな小論文を書いているかを知るのは興味深いですね。自分の授業内容を見直すよい機会ですよ。

ループリックによる査定結果

教員集団が100の学生の作品を査定した結果の単純集計

要素／段階	期待に合致しない	期待に近づいている	期待に合致する	期待を超える
社会科学の調査手法に関する理解（仮説形成、情報収集、観察、測定など）	40%	30%	25%	5%
主要な概念やモデルの応用	10%	30%	40%	20%

課題：社会科学の調査手法に関する理解が学生の間で十分に理解されていない。

改善策：①教科書の見直し、②教授法の改善、③課題や宿題の見直し、④先行履修科目の見直し、⑤補習教育の検討、⑥TAの導入など

目標値の設定：次回の学習成果の診断では「期待に合致しない」学生の割合を半減させる

参加した教員の声

- 学内でどのような科目が教えられているのか理解できた
- 他の教員がどのようにして学生への課題を作成しているのか参考になった
 - 単に「〇〇について書け」という課題の出し方をしている科目は、学生の学習成果が低い傾向にある。対照的に、教員がより具体的な課題の設定や論文作成の指導まで明記している場合は学生の学習成果が高い。
- 教員の「内なる声」や「良心の呵責」が共有される
 - そもそも学部の学習目標が抽象的で、教員が好き勝手に授業を組み立てていた。
 - 学習成果を測定する以前の問題で、まずは我々の学科が掲げた学習目標に即した科目を配置し、学習内容に整合性を取れているのか。まずはこの課題を教授会で検討させて欲しい。
- 想定外の改善
 - 教員採用の基準の見直し

学内の障壁

- 教員の参加者が少ない
- 教員の不信感や反発
 - 診断結果が人事査定に使われるのでは？
 - 学問の自由への侵害
 - 学習成果の診断は負担増
- 報奨と処罰の欠落
- 学生の作品が集まらない
- 準備と査定に膨大な時間が掛かる
- カリキュラム開発の体系性の欠如
- 改善に向けた実行計画を支援する学内体制の欠如
- 執行部の姿勢

地道な改善

- 教員向けの学習成果の診断の手引きを作成
- 学部長や学科長と協力して参加教員を募集
- 教員や学科長へのオリエンテーションの充実
- 執行部と学内体制や予算の調整

日本への示唆

- ルーブリックはあくまでも査定の説明責任
- プログラム次元のルーブリックによる診断は準備や査定の作業量が膨大なので、小さく始めることが肝心（共通の必修科目や卒業研究から）
- 上からのお仕着せは現場の改革につながらない
- 他の機関が作成したルーブリックを真似たり、流用しても効果は薄い
- 時間はかかるが、教員が自分達でルーブリックを作成する方が自ずと診断への参加や意欲も高まり、改善につながり易い

学習成果に係る全米の傾向

- 大学における法令順守
 - 適格認定団体がやれというから、やっている
 - 学習成果の測定結果は多くの大学で活用されない
- 適格認定協会のジレンマ
 - 協会は連邦政府と大学の板ばさみ
 - 「説明責任」と「改善」は同時進行が可能か？
 - 学習成果の測定を厳しくする程、学内の施行は儀礼化する（Mayer & Rowan 1977）
 - 質保証制度と大学の主体性（Ownership）と文化（Culture）の問題

ご清聴ありがとうございました

- 質疑応答

- 連絡先

- hirosukehonda@gmail.com

講演者の経歴

- 麗澤大学在学中にロンドン大学へ留学、その経験から日本の大学を変えたいと決意。
- 桜美林大学修士、アメリカの高等教育に憧れてIRや戦略計画に関する米国の文献を調べ、2ヶ月間で4大学の50名以上の大学役員や教職員にインタビュー調査を実施。
- 大東文化大学で2年半、学務課学長室を担当し、新学部設置にも係わる。
- ニューヨーク州立アルバニー大学で高等教育政策の博士号を取得。
- 専門は大学の質保証制度をNew Public ManagementとNew Institutionalismから考察。
- ニューヨーク州立エンパイア・ステイト・カレッジで学習成果担当の専門職員として3年半勤務する。
- 米国でIRとAssessmentの分野で就職活動をし、研究大学から小規模教養大学の事情や中部適格認定とニューイングランド適格認定の違いを理解。最終的にメイン州立大学アーガスタ校へ転勤する。

付録 1 : IRの領域と有効性

概要

- IRの定義
- IRの有効性
- Institutional Effectiveness（機関の有効性）

IRの定義

- 「IRとは高等教育機関の内部で実施される調査で、組織の計画立案、政策形成、意思決定を支援する情報を提供する」（Saupe 1999）

IRの具体的な業務

- より詳細は（柳浦 2009）を参照のこと
 - IPEDS（連邦政府の高等教育機関情報集）
 - 大学ランキング
 - 適格認定の対応
 - Fact Book（大学年報）
 - 各種調査（学生、教員、卒業生など）
 - 戦略計画の支援

IRの多面性

IR	下記の総称
IR Office	IR部署
Organization Chart	組織図上のIR部署の位置づけ
IR Function	学内におけるIR部署の役割
IR Work/Project	IR業務
IR Staff	IR部署の構成員の役職や肩書き、専門能力
Job Description	IR部署の各構成員の業務内容、責任、人事評価の基準など

大学類型別のIR部署の業務の違い

- より詳細は（本田 2011）を参照のこと
 - アイビー・リーグ
 - 州立旗艦大学（Flagship University）
 - 地域総合大学
 - 教養教育大学

日本でのIR議論への示唆

- Saupe（1999）の定義するIRを日本で具現化する
ためには、下記の項目を検討する必要がある。
 - 大学の規模
 - 大学の類型（研究か教育志向）
 - 評価室部署の組織的位置付け
 - 評価室部署の役割
 - 評価業務の内容
 - 評価室の構成員数と各自の専門能力
 - 評価室長の専門能力と職務権限など

IRの有効性とは？

- 日本の大学関係者から「米国のIRはどれだけ機能していますか？」とよく聞かれるが、講師としては「事例によって異なる」としか答えようが無い。
- ところが、それでは日本の方々にとって満足のいく回答ではない。もし議論を深めるのであれば、日米の事例を確定させるべきだが、限られた時間と知識量の差があり、それが叶わない。

IRの有効性を概念的に検討

講師の経験と観察では、大きく分けて下記の4つの要因によりIRの有効性が規定される。

1. 課題の分野や性質（教学、事業計画、財務など）
2. 課題の重要度や緊急性
3. 課題の分析可能性（課題の明確化、データ収集、データ分析）
4. データ活用の組織的な素地（執行部、評議会、委員会のデータへの関心や意思決定の姿勢、更には大学の規模や組織文化など）

講師なりのIRの定義

- 大学の意思決定において、個人的な認識や経験があたかも全学の実態のように極度な一般化が成されたり、教育や研究に係る観念的な違いから議論の堂々巡りが度々生じる。
- このような状況を打開するため、IR部門は機関情報の収集や各種調査の分析により、学内の課題探索、問題提起、合意形成を支援する。
- ただし、データ収集や調査分析はある事象の全ての側面を捉えることは難しく、それらの解釈は構成員の関心や意図により異なる。このような限界の他に、学内政治がIR部門や業務の有効性に大きな影響を与えている。

Institutional Effectiveness（機関の有効性）

IE（機関の有効性）主に下記の5つの領域を包括

1. IR（機関情報や各種調査）
2. Learning Outcomes Assessment（学習成果の診断）
3. Strategic Planning（戦略計画）
4. Data System Management（情報管理）
5. Enrollment Management（狭義は入学者分析、広義は在学者分析）

アメリカのIE領域の人材

専門分野	人材と職務
IR (機関情報と調査)	小規模私学は外部への報告が主、担当者は学部卒でも可。大規模研究大学ではアンケート調査の実施や分析も担当。
Learning Outcomes Assessment (学習成果の診断)	小規模大学では教員が兼務。大規模大学では専門職員と学部学科の担当教員が協同。
Strategic Planning (戦略計画)	小規模大学ではIR Directorが担当。大規模大学では専任のDirectorが全学の施行を統括。
Data System Management (情報システム管理)	小規模私学ではIR担当者が兼務。大規模大学では専門職員がData Warehouseを構築。
Enrollment Management (入学者、在学者分析)	小規模私学ではIR担当者が兼務し、単純集計をまとめる。大規模大学では専門職員が入学者予測や奨学金の給付額を統計解析する。

付録 2 : 適格認定の有効性

概要

- 適格認定に係る根本的な疑問
- 適格認定の段階的な評価の試み

適格認定に係る根本的な疑問

- 適格認定で認定されない大学数はごく僅か
 - 適格認定とは最低限の基準では無かったのか?
- 説明責任の対応と継続的な改善は同時進行で実施が可能か?
 - 形成的診断と総括的評価と同様の課題

適格認定の段階的評価の試み

- 西部適格認定を参考に、講師が中部適格認定の状況を推察して作成

	不可	可	良	優
戦略計画の 施行	全学の戦略 計画を作成 していない	全学の戦略 計画を作成 し、学内で 共有してい る	全学の戦略 計画が各部 門に落とし 込まれ、そ の次元で施 行されてい る	各部門の戦 略計画の結 果を予算配 分へ反映さ せている

適格認定の段階的評価の試み

- このようなルーブリックは適格認定団体が観念的、演繹的に作成するのではなく、外部評価の経験者に聞き取り調査をして帰納的に作成する方が現実性や妥当性が高まるであろう。

	不可	可	良	優
学習成果の 診断の施行	抽象的な全 学の教育目 的を単に記 述している が、学習成 果の診断に 係る全学計 画が設けら れていない	全学の教育 目的を学部 学科の教育 目標と学習 成果でより 具体的に定 め、学習成 果の診断は 機関情報と 間接指標に 限られる	学習成果は 直接指標と 間接指標か ら多面的に 診断し、調 査結果を改 善へ向けた 実行計画の 施行へとつ なげている	学習成果の 実施と改善 の実行計画 の施行をよ り充実させ るため、学 内において 報奨制度や 研修の機会 を提供して いる

段階的評価の可能性

- 評価基準の説明責任
- 大学が次の段階へ移行する為の指針を示すことが出来る

参考文献

- 青山佳代（2006）「[アメリカ州立大学におけるインスティテューショナル・リサーチの機能に関する考察](#)」『名古屋高等教育研究』第6号，113-130頁.
- 沖清豪・岡田聡志（2011）『データによる大学教育の自己改善ーインスティテューショナル・リサーチの過去・現在・未来』学文社
- 沖裕貴（2005）「[大学における教育目標の設定と達成度評価の基本的な考え方](#)」 大学教育 第2号：1ー16
- 笠原千絵（2011）「[学習成果の評価方法とルーブリックの活用 -アメリカの高等教育関連団体と大学におけるインタビュー調査から-](#)」 関西国際大学研究紀要 第12号：37ー46
- 加藤毅・鵜川健也（2010）「[大学経営の基盤となる日本型インスティテューショナル・リサーチの可能性](#)」『大学論集』第41集，235-250頁.
- 金子元久（2011）「IRー期待、幻想、可能性」現代の高等教育No.528，大学協会，4-12頁.
- 川口昭彦（2009）『大学評価文化の定着：大学が知の創造・継承基地となるために』 ぎょうせい
- 北川剛司（2011）「[形成的評価の位置と方法ー総括的評価と形成的評価の際に着目して](#)」 高田短期大学紀要第29号
- 串本 剛（2006）「[大学教育におけるプログラム評価の現状と課題ー教育成果を根拠とした形成的評価の確立を目指してー](#)」 大学論集 第37号: 265-276

参考文献

- 小湊 卓夫, 中井 俊樹 (2007) 「[国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題](#)」 大学評価・学位研究 第5号
- 佐藤仁, 森雅生, 高田英一, 小湊卓夫, 関口正司 (2009) 「[大学評価担当者の抱える現場の課題—アンケートの結果から—](#)」 大学評価・学位授与機構『大学評価・学位研究』, 第9号, 63-77頁.
- ジョン・ムッフオ (2012) 「大学教育の有効性、学生の学習、成果のアセスメント」 リチャード・ハワード編『IR実践ハンドブック：大学の意思決定支援』 大学評価・学位授与機構IR研究会訳 玉川大学出版部
- 高田英一, 高森智嗣, 森雅生, 桑野典子 (2012) 「[国立大学法人評価における教育成果に関する記述の現状と課題について—現況調査表・現況分析結果の記述の分析を中心に—](#)」 大学評価・学位研究 第13号
- 大学基準協会 (2010-2012) [公表資料](#) (アウトカムズ・アセスメントと内部質保証について複数)
- 大学評価・学位授与機構 (2010) 『大学評価文化の定着：日本の大学教育は国際競争に勝てるか?』 ぎょうせい
- 本田寛輔 (2011) 「アメリカのIRと日本への示唆」, 現代の高等教育No.528, 大学協会, 17-25頁.

参考文献

- 森利枝（2009）「日本の大学のIR－それはいかにあり得るか」『Between』2009年冬号，8-9頁.
- 森利枝（2011）[第2章 私立大学におけるインスティテューショナル・リサーチ構築に向けての検討. 高等教育におけるIR（Institutional Research）の役割](#)，私学高等教育研究叢書.
- 文部科学省（2008）[学士課程教育の構築に向けて（答申）](#)
- 柳浦猛（2009）「[アメリカのInstitutional Research IRとはなにか？](#)」国立大学財務・経営センター研究報告（国立大学法人における授業料と基礎的教育研究経費に関する研究第12章），220-253頁.
- 柳浦猛（2011）「アメリカのIRの本質？」，IDE現代の高等教育No.528，IDE大学協会，12-17頁.
- 山田礼子編（2009）『大学評価を科学する：学生の教育評価の国際比較』東信堂
- ランディ・L・スウィング，山田礼子訳（2005）「[米国の高等教育におけるIRの射程，発展，文脈](#)」『大学評価・学位研究』，第3号，23－29頁.
- 吉田武大（2003）「[アメリカにおけるバリュールーブリックの動向](#)」『関西国際大学研究紀要』第4号：1－12

参考文献（IR関連）

- Azorus Administration (2013) Persistence vs. retention rate. Higher Ed Insight. Retrieved from <http://blog.azorus.com/?p=170>
- Delany, A. M. (1997) The Role of Institutional Research in Higher Education: Enabling Researchers to Meet New Challenges. *Research in Higher Education*, 38-1, 1-16.
- Middle States Commission on Higher Education (2005) *Assessing Student Learning and Institutional Effectiveness: Understanding Middle States Expectations*. MSCHE.
- http://www.msche.org/publications/Assessment_Expectations051222081842.pdf
- Middle States Commission on Higher Education (2006). *Characteristics of Excellence in Higher Education: Requirements of Affiliation and Standards for Accreditation*. MSCHE.
- <http://www.msche.org/publications/CHX-2011-WEB.pdf>
- Peterson, M. W. (1999). The Role of Institutional Research: From Improvement to Redesign. *New Directions for Institutional Research*, No.104, 83-103.
- Saupe, J. L. (1990) The Function of Institutional Research 2nd Edition. Association for Institutional Research.
- Serban, A. M. (2002). Knowledge Management: The “Fifth Face” of Institutional Research. *New Directions for Institutional Research*, 2002(113), 105–112.

参考文献（IR関連）

- Swing, R. L. (2009). Institutional researchers as change agents. *New Directions for Institutional Research*, 2009(143), 5–16.
- Terenzini, P. T. (1999). On the Nature of Institutional Research and the Knowledge and Skills It Requires. *New Directions for Institutional Research*, 1999(104), 21–29.
- Thorpe, S. W. (1999) "The Mission of Institutional Research." 26th Conference of the North East Association for Institutional Research.
- Volkwein, J. F. (1999). The Four Faces of Institutional Research. *New Directions for Institutional Research*, 26(4), 9–19.
- Volkwein, J. F. (2008). The Foundations and Evolution of Institutional Research. *New Directions for Higher Education*, (141), 5–20.

参考文献（学習成果関連）

- Banta, Trudy W., Jones, Elizabeth A., and Karen E. Black. (2009) Designing Effective Assessment: Principles and Profiles of Good Practice. San Francisco: Jossey-Bass.
- Florida International University.
[Sampling for the Assessment of Student Learning Outcomes](#), Retrieved in 2012.
- Krejcie, Robert, V. (1970) [Determining Sample Size for Research Activates](#).
Educational and Psychological Measurment.30: 607-610.
- Pippin Uchiyama, Kay., and Radin., Jean L. (2009) [Curriculum Mapping in Higher Education: A Vehicle for Collaboration](#). *Innovative Higher Education* 33:271–280.
- State University of New York. [Assessment](#), Retrieved 2012 .
- State University of New York. [GEAR Guidance](#), Retrieved 2012.
- State University of New York. [Guidelines for the Approval of State University General Education Requirement Courses](#), Retrieved 2012.
- State University of New York. [Template: Summary of Assessment of Student Learning Outcomes in General Education](#), Retrieved 2012 .

参考文献（学習成果関連）

- Suskie, Linda A. (2009) *Assessing Student Learning: A Common Sense Guide*. San Francisco: Jossey-Bass; 2nd edition.
- Stevens, Dannelle D., and Antonia J., Levi. (2004) [*Introduction to Rubrics: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning*](#). Stylus Publishing.
- Trow, Martin. (1996). [*Trust, markets, and accountability in higher education: A comparative perspective*](#). Research & occasional paper series: Center for Studies in Higher Education. University of California, Berkeley.
- Weiner, Wendy F. 2009. [*Establishing a Culture of Assessment: Fifteen elements of assessment success—how many does your campus have?*](#) Academe Online
- West Chester University (2009) *Assessment terms and definitions*.
<http://www.wcupa.edu/tlac/documents/More%20on%20Measures--Definitions.pdf>